



季節のエッセー
いわての野草

文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

「ツリガネニンジン」

(キキョウ科) 別名/トトキ

美味しいことで有名である。

何せ、山菜採りをする人たちの間には、「山でうまいオケラにトトキ」という言葉があるくらいなのだ。

しかし、じつを言うと私はまだ、トトキを食べてみたことがない。

トトキの旬は春。自慢じゃないが私には、芽生えのころの草など、どれも同じに見えて、とても口にしてみる自信がないのだ。

「なあに、キキョウの仲間はどれも、茎を折ると白い汁が出るから、それらしいものを折ってみて、汁が出たら大丈夫さ！」とは、山菜採りの人の弁。

春に採って食べるより、秋の野で優しい花を眺めることに心引かれる私は、やはり飽食の世代なのかも知れない。

ニンジンとの名前は、根が太いところからついたという。

参考資料: 澤口たまみ著『岩手の野草百科』(岩手日報社発行)より

タイトルのKlara (クララ) は、宮沢賢治の手帳に記されている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

純情産地発 クララ **KLARA** vol.806 2016.9

みんなの力で!



がんばろう!岩手 純情産地いわて

contents

季節のエッセー いわての野草	02	みんなの分教場	07
特集 「担い手直送規格・省力防除」の取り組みについて	03	報告! 出向く活動班	08
消費地だより	06	純情人	09
JAタウン いわて純情館	06	純情むすめ活動記	09
		ニュースワイドアングル	10

資材部

特集

「担い手直送規格・省力防除」の取り組みについて

特集 — 「担い手直送規格・省力防除」の取り組みについて

①秋に撒いて忙しい翌春の除草不要!

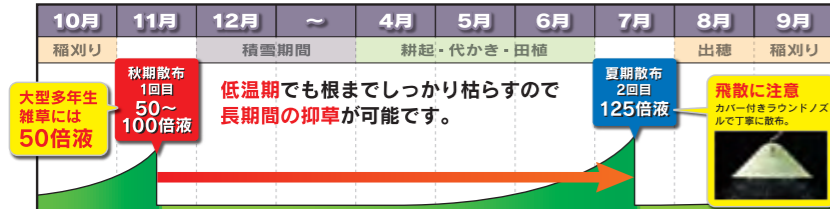
春は耕起・代かき・田植・水田除草剤散布・畑地の管理作業等が忙しい時期。その時期での畦畔除草が省けるので、大幅な省力化になります。



②年間2回の散布でOK!

秋期に散布すれば農繁期を避けた年間2回の散布で済み、除草作業の軽減、効率アップにつながります。

【例】ラウンドアップマックスロードで畦畔雑草防除の場合



本会農業事業におけるコスト低減の取り組みとして、今回ご紹介した「担い手直送規格」の他にも、「ジェネリック農薬の提案」を進めております。今後も生産者・農家組合員の皆様に信頼される生産資材価格の実現、および集落営農組織や法人等大規模経営体への事業推進をJ Aと一体となって取り組んでまいります。

IV. おわりに

た、コスト低減につながる大型規格も各種取り揃えております。

■提案品目①
品名…ラウンドアップマックスロード
規格…200L、20L、5.5L、2L
有効成分…グリホサートカリウム塩

■提案品目②
品名…バスタ
規格…10L、5L、2.2L
有効成分…グルホシネート

III. 省力防除

■特徴
除草剤を秋に撒くことにより、忙しい翌春の除草が不要になります。
「忙しい春先に畦畔除草作業をできるだけ省きたい」「夏場の草刈り機での除草は危険で重労働」「雑草害で減収になるのは嫌だ」「収量をもっと確保したい」などのお悩みにお応えします。ま

I. はじめに

近年の農業生産組織等の大規模化にともない、より一層のコスト低減・省力化が求められています。本会は担い手対策として、大規模農家の方々が低価格を実現できる特別大型規格品を設定し、物流コスト等を抑えた「担い手直送規格」を推進しています。

また、生産者のみなさんの労力軽減を目的に、農作業の中で大きな負担となっている除草作業の「省力防除」について、除草剤の効果的な使用を推進しています。
今回は「担い手直送規格」および「省力防除」について、除草剤の提案を交えながらご紹介いたします。

II. 担い手直送規格

■特徴
完全受注生産、農薬メーカーから農家組合員様のご自宅へ直送するなど、徹底した物流コストの削減により、大幅な引き下げを実現しています。基準価格（10kg当たり）と比較して20～30%程度の価格低減となります。
今回は水稲初中期一発処理除草剤のご提案となります。
※小分けでの販売はできません。
※完全受注生産（返品不可）となるため、注文時期を限定した専用注文書による受注・配送となります。

■提案品目例①
品名…クサカリテイオー1キロ粒剤75



規格…40kg（4kg×10袋）
有効成分…ベンスルフロンメチル、ペントキサゾン、プロモブチド
外装は内径430mm×高さ555mmの円柱形・紙

型ドラムです。

■提案品目例②

品名…デルタアタック1キロ粒剤
規格…50kg（10kg×5袋）
有効成分…イマズスルフロン、オキサジクロメホン、ピラクロニル、プロモブチド
外装は縦370mm×横370mm×高さ700mmの円柱形・紙型ドラムです。



消費地販売部 純情ブランド消費地の「今」をレポートします。

消費地だより



今月のリポーター
消費地販売課
赤崎 弘悟

27年産米は、各産地共に販売先との契約締結がほぼ終了し、新米スタートの時期となりました。7月下旬からは、南九州の鹿児島、宮崎、四国の高知などから早期米の出荷が始まっており、農林水産省が7月24日に公表した早場米地域の作柄は、宮崎県および

高知県は4月〜6月の日照不足等の影響により穂数及び全もみ数が「やや少ない」「少ない」と見込まれ、鹿児島県では6月以降の大雨の影響から登熟が「やや不良」と見込まれることから早期米の作柄については「やや不良」と見込まれるとの発表がありま



コープ未来店舗での販売の様子

した。(7月24日公表)また、8月下旬には千葉から関東の新米の出荷も始まっているとみられます。

この様な中で「いわて純情米」は、安定品質、安定供給の面から各卸、各実需者から多く要望を頂いており、特に中食・外食など安定品質、安定供給が求められる業務用実需者の需要が伸びてきており、末端ユーザーと産地の結びつけを図ることで長期的安定的な取引の拡充に取り組んでおります。28年産米では出荷契約数量以上の要望を頂いており、28年産米のいわて純情米への期待の大きさが伺えます。

また、28年産から販売を開始する「銀河のしずく」については、現在、主要卸と共に販売に向けた商談を進めております。北海道の「ゆめびりか」、山形県の「つや姫」に加え、青森県の「青天の霹靂」、新潟県の「新之助」など各産地からも良食味新品種が市場デビューしており、ブランド米による産地間競争も激化しています。この様な中、「銀河のしずく」および来年度から販売予定の「岩手118号」のブランド確立に向けては、行政、卸、実需者と協力し、新たな需要を確保するとともに、「いわて純情米」の評価の底上げを図っていきます。

前述の通り、28年産米では実需者から出荷契約以上の要望を頂いております。安定した品質のものを安定して実需者へ供給していくことが何よりの信頼に繋がります。実需者からの信頼に応えられるよう生産者の皆様方には、農協、全農本部へ出荷していただきますようお願いを致します。

みんなの分教場

農業倉庫強化月間とCEコンクールについて



米穀部 米穀販売課
技術主管
伊藤 専一

保管と検査は米流通の「車の両輪」と例えられておりましたが、平成15年3月に保管管理の指針であった「国の保管管理要領」が廃止され、平成18年には農産物検査の完全民営化、さらに平成28年4月には農業倉庫業法が廃止され、保管は「自主保管マニユアル」に基づく適切な管理が必要とされます。

農業倉庫の有り様も、大量流通から、安心・安全が求められます。平成12年以降の大手乳業の食中毒、BSE、ミート事件や平成20年8月の国による非食用米穀の食用への転用により、食に対する消費者の目は厳しいものとなりました。荷受段階では、包装容器の汚れ、米麦の病害虫・害カビ被害、異物混入等についてチェックが行なわれてい

ます。表示の洩れは、JAS法違反につながると厳しいチェックが行なわれています。

岩手県JA農業倉庫・カントリーエレベーター保管管理協議会は、安心・安全を求め「農業倉庫保管管理巡回点検」並びに「CE運営管理・環境整備コンクール」を実施し、食品事業者の認識と岩手県産米のレベルアップに機敏に対応出来るよう、平成28年度の農業倉庫保管管理巡回点検では、米麦が在庫している124倉庫を対象に実施し、カントリーエレベーターは8ヶ所を対象に、運営管理・環境整備コンクールを行い情報の共有化を推進しています。

また、CEのコンクールは、「見られる施設から見せる施設」をテーマとしています。岩手県産米のレベル

平成28年4月農業倉庫数及び巡回点検倉庫数

区分	年度	平成28年度倉庫	巡回点検実施倉庫数
低温倉庫		58(140,060t)	46
準低温倉庫		73(111,333t)	64
常温倉庫		85(55,328t)	14
計		216倉庫(収容力306,721t)	124
CE		28CE(75,523t)	8
合計		244(382,244t)	132

CE及び農業倉庫等建設年数

西暦	01以降	00~91	90~81	80~71	70~61	60以前	計
低温	5	17	7	14	14	1	58
準低		2	8	20	40	3	73
常温	3	1	3	7	55	16	85
計	8	20	18	41	109	20	216
CE	2	22	1	1	2		28

アップにつながるよう、品質管理体制、事故防止対策及び環境整備等適切な運営について項目を定め審査を実施しました。最優秀賞には、すべての面で丁寧な管理が行なわれている「JAいわて花巻西南CE」。優秀賞には、徹底した管理が行なわれている「JAいわて花巻石鳥谷CE」。奨励賞には、適切な運営が行なわれている「JAいわて花巻江釣子CE」・「JAいわて平泉CE」が受賞しました。表彰式は、JAいわて花巻笹間支店で行い、最優秀賞を獲得したJAいわて花巻西南CEを視察後に一歩進んだCE運営管理としてCE研修会を行いました。

農業倉庫では、施設の老朽化が課題となっています。上級責任者は自ら施設に出向き、

施設の現状、保管管理の体制、日常管理の現状、法令の遵守について現場保管責任者と意見交換を行い、課題を明確にするなか計画的な保管管理に取組むことが大切です。また、農業倉庫保管管理強化月間中には、「自主保管マニユアル」に基づいた運営となっているか、自ら点検することが大切です。

さらに品質事故防止とし、一歩進んだ保管管理を求めます。①温暖化のなか品質管理が重要となり、水分品質を定期的に測定し農業倉庫保管管理日誌への記載を求めます。②包装の汚れや害虫発生を防止とし、清掃と下屋の不要物品の整理や倉庫外周も含め整理整頓を求めます。今回の巡回点検は、各項目で組織的に創意工夫し日々の保管管理を大事にしている倉庫が増え、さらなる改善が期待出来るものとなっています。

しかし、いつまでも指摘が改善されていない倉庫もあります。今回の巡回点検で指摘された上級責任者は現場保管責任者と報告・連絡・相談を一層密に行い、目標を持った保管管理とすることが大切です。また、人事異動の際の担当者間の引継が不十分などところも見受けられ、サポート体制の充実等、目標を掲げ細やかな日常管理が求められます。

岩手県JA農業倉庫・カントリーエレベーター保管管理協議会は、保管管理によりお米の商品性が失われることのないよう、細やかな日常管理の実施が大切と考え、指摘事項の履行状況確認を行うなか、岩手県産米のレベルアップのため、一歩進んだ保管管理について意見交換を行って参ります。

産地直送通販サイト

JAタウン いわて純情館

注目の一品!

素材にこだわり丁寧に仕上げました。

ふうせつ花 お豆腐と湯波の詰め合わせ

ざるおぼろ豆腐(480g×2P)
～ひとくちめはそのまま、ふたくちめはお塩どうぞ～
契約栽培大豆「秘伝緑豆」、「庄内茶大豆」を使い、時間をかけて寄せ、ざるに盛り自然に水を切ることで、香りとコクのあるお豆腐に仕立てております。

汲み上げ湯波(2箱)
当店の生湯波は、通常より濃い豆乳を使用しております。それぞれの豆の味わいが、強く感じられる生湯波です。

秘伝大豆納豆(85g×2P)
秘伝大豆納豆は粒が大きく甘い風味があり、納豆がお好きな方から、とても好評をいただいております。

お豆腐2種、湯波、納豆のセット
左=緑豆豆腐 右=茶大豆豆腐

JAタウン「いわて純情館」では純情ブランドを全国の食卓にお届けしています。



報告！ 出向く 活動班



今回の報告者
担い手サポートセンター
出向く活動班
新沼 真也

「新規就農者」と「集落営農・法人組織」を 担い手の両輪として集中的に支援！

今月は、JAいわて平泉が取り組む担い手支援活動について紹介します。

JAいわて平泉は、平成26年の合併により誕生したJAであることから、営農部の中心拠点は「西部営農振興センター（関市中里）」と「東部営農振興センター（大東町摺沢）」の2カ所に設置されており、県内7JAの中で、唯一担い手サポートセンターを設置しているJAです。

JAいわて平泉担い手サポートセンター（営農振興課）は、主たる業務として「部署間連携による主たる担い手の支援・育成による農業所得の拡大・地域活性化」を掲げ、主たる担い手を①新規就農者（就農5年以内、新規就農研修生）②集落

営農・法人組織認定農業者と定めて、集中的な支援活動を実施することとしております。

◆新規就農研修生に対する支援活動 【平成28年度研修生：4名】

①一関市単独事業である新規学卒者等就農促進支援事業を活用し、就農前の研修生をJAが臨時職員として採用し、園芸や畜産の部会を通じ、各部門の認定農業者での実地研修や、JA各施設での作業を通じ、将来自分が営農するための基礎知識を習得させる。

②今年度より、2か月に1回の個人面談会を行政等（普及C・農林振興C・市農林振興課・市各



H28新規就農研修生面談会風景



集落営農組織連絡協議会総会



新規就農者巡回面談

支所産業経済課・農業公社農地コーディネーター 泉担い手SC)を含めて実施し、研修先や研修内容に対する感想や意見の聴取、将来の就業計画、それを実現するための土地や施設、農機具等の取得に関する補助事業の説明や、資金の調達方法等の相談を行い、就農に対する不安の解消に努めている。

◆新規就農者（就農5年未満）への支援活動 【平成28年度対象者：34名】

①JAの専任TACと担い手SC出向く活動班（小職）が定期的に巡回訪問し、営農活動や栽培管理状況等を把握すると共に、専門的な課題が生じている場合は、部門担当課との連携により課題解決への支援を実施している。

②青年就農給付金事業の交付金対象者の巡回面談会を3か月に1回、行政（普及C・農林振興C・市農林振興課・市各支所産業経済課・平泉町農林振興課）、JA営農振興課、出向く活動班で実施し、営農計画に基づき実施されている事を確認すると共に、個別相談による支援を行っている。また、新規就農担当者会議（行政関係機関・JA・泉担い手SC）を年2回開催し、新規就農者の個別対応について協議・連携を図っている。

◆法人・集落営農組織への支援活動 【平成28年度対象組織：44組織】

①法人・集落営農組織に対する支援は、平成27



新規就農者巡回面談



（農）アグリ平泉との営農相談

年度に設立した「JAいわて平泉集落営農組織連絡協議会」を基軸に支援体制を整備し、集落営農法人意見交換会や法人化に関する個別面談会、営農組織経理担当者研修会、先進地研修会、JA常勤役員との懇談会、JAいわて平泉黄金の郷づくり推進事業及びJAいわてグループ農業担い手サポート事業説明会等を通じ、営農経営全般に渡るサポートを行政関係と一体になり行っております。

◆とまと部会 担い手班による園芸産地確立支援の活動を紹介

JAいわて平泉とまと部会担い手班は、「園芸ハウス建設組合」を創設し、農閑期（12月〜3月）に、有休ハウスの解体・建設事業を実施しており、ハウスが欲しい生産者や増反したい生産者からの要望を募り、坪単価による請負事業を展開している。作業は担い手班のメンバーの連携作業で実施しているが、栽培年数の浅いメンバーにとっては、先輩との会話は日頃悩んでいる事の解決の糸口や栽培技術の習得に繋がるサロンの場となっているようである。

◆今後の訪問活動強化に向け

JAいわて平泉では、担い手支援事業の一環として、泉担い手サポートセンターが進めている金融部門でのTACシステム入力による部門間連携の強化を進める事としており、また、経済部門での訪問活動体制を構築し8月から活動を開始する事としている。

以上、JAいわて平泉の担い手支援活動の一部について紹介しましたが、新規就農者への取組事例等は各JAでも参考になるのではないかと考えて紹介させて頂きました。我々担い手サポートセンター出向く活動班の仕事は、JA及び生産者（担い手）の現場にしか無いの思いで今後とも活動してまいります。

笑顔が はじける

純情むすめ 活動記

人々を笑顔にする魔法の踊り



2016いわて純情むすめ
佐藤 江津子

「マウらちよいわやせ」私が初めてこの言葉を聞いたのは小学生のとき盛岡を案内してさんざ踊りのことを教えて下さったバスガイドさんがきっかけです。その言葉の音頭が愉快で楽しく何度もクラスのみんなで真似をして盛り上がったのを今でも覚えています。その10年後の8月、純情むすめとして私はさんざ踊りのパレードに出ることとなりました。私は北上市の出身で踊りに馴染みがなく運動音痴という事もあり自分が当日堂々と踊っている様子が想像できませんでした。

しかし先生に丁寧に教えて頂き、またメンバーとも確認し合いながら少しずつではありましたが踊れるようになっていきました。

ある日、先生に視線が下で笑顔がないと言われ今まで自分の為だけに踊っていたことに気づきました。それまでは失敗しないように、確実に踊れるようにとだけ考え周



りの方を楽しませたいという思い、自分自身が楽しんで踊るといふ気持ちがなかったのです。それでは一緒に踊るメンバーや見に来て下さったお客様にも失礼だと思い、笑顔で元気に踊ることを考え練習を始めました。日に日に胸が高まり迎えた当日。私は失敗しても落ち込まず最後まで笑顔で踊りきろう、あの日皆さんの楽しさを教えて下さったバスガイドさんのように周りの方に楽しさが伝わるように踊ろう！そう思い純情むすめ7人揃って無事、踊る事ができました。踊っている最中沿道のお客様の笑顔が目に入りとても楽しく最後まで笑顔で踊りきることができ、今まで感じたことのない達成感と感謝の気持ちが溢れ出しました。今回、さんざ踊りを1から教えて下さった先生を初めに一緒に練習したメンバーとたくさんの方のおかげでパレードを成功へと導くことができました。純情むすめとなりまだ日が浅いですが感謝の気持ちをもちこの素晴らしい岩手を知っていただくこととさんざ踊りを通して感じた、沢山のの方に幸せを届けたいことを忘れずこれからも日々邁進してゆきたいです。



JA全農いわての 純情人

じゅん じょう びと

趣味・特技

ドライブ・サッカー観戦・チェキ写真収集

現在の担当業務

各イベントの取材・クララの編集

これからどんな職員になってみたいか

様々な場所・ジャンルへの取材に行くことが多い業務内容なので、広い視野で対応できるような知識を身に付けていきたいです。その中で、広く浅くではなく、広く深く知識を身に付けていきます。記事を書く際には、各場面の最重要項目をこぼさずインタビューし、皆さんに伝わりやすく迫力のある写真を撮影し、面白い広報誌を作成します！



管理部
総合企画課
しょうた
おの
小野 将太さん(23歳)

平泉の花きを全国へ

7月25日(月)

JAいわて平泉花き出発式

小菊やりんどうの本格出荷時期を迎えたJAいわて平泉は、安定販売と輸送の安全を祈念し、生産者の生産意欲高揚を図ることを目的に、出発式を開催しました。

式には生産者や関係者約150名が出席。JA全農いわて園芸部の



花き総販売数5億円の必達を誓ったスローガン唱和

川村千伸次長は「岩手を代表するりんどうの生産量日本一を維持して欲しいです。日本で一番高い山は富士山だとすぐわかりますが、2番目に高い山はすぐにはわかりませんか？小菊やスターチスなども日本一目指して、盛り上げていきましょう」と生産者を鼓舞しました。

スローガンの唱和で花き総販売数5億円の必達を誓い、今年の販売に期待を込めて、万歳三唱とともに平泉の花き720箱が積み込まれたトラックを関西方面の市場へと送り出しました。



関西方面の市場へと運ばれます

いわて牛の美味しさをPR!

8月6日(土)

いわて牛無料試食会



今回提供された、いわて牛モモ丸焼き

岩手県農協肉牛経営者連絡協議会は盛岡駅前広場にて、県産和牛の普及および消費拡大を目的に、いわて牛無料試食会を開催しました。この取り組みは今回で5回目、関係者約80名が参加しました。会場では、駅利用者を中心に、いわて牛モモ丸焼きなどの焼肉、約1500食を振る舞った他、JA全農いわてより県産きゅうり及び県産牛乳を無料で提供しました。

同協議会の千葉幹雄会長は開成式で「今回で5回目の開催です。いわて牛のファンを増やせるように全員で頑張りましょう」と意気込みを語り、気温35度を超える猛暑のなか、会長自らお客様へ焼肉を手渡しました。

イベントではJA新いわて営農経済部の菅原敏栄部長他2人によるストリートライブやいわて純情むすめによるクイズ大会を実施し、正解者には豪華賞品をプレゼントするなど、大賑わいとなりました。

JA全農いわては今後も各イベントを通して、県産農畜産物の普及や消費拡大PRに努めていきます。



いわて純情むすめもお手伝い

県産農畜産物を力に!

7月28日(木)

盛岡大学附属高等学校硬式野球部贈呈式

JA全農いわては、第98回全国高等学校野球選手権大会に出場する盛岡大学附属高等学校に、いわて純情豚1頭分と支援金として金一封を贈りました。28日、サンビル4階の応接室で開かれた贈呈式には同校赤坂昌吉校長と関口清治監督、石橋泰成主将が出席。本会畠山俊彰県本部長は「甲子園では岩手県代表として、岩手旋風を巻き起こしていただきたい」と激励し、目録を手渡しました。受け取った石橋主将は「チーム全員でたくさん食べ、力をつけていきたいです。打ち勝つ野球で戦ってきます」と応えました。

同校野球部は今大会で、2年ぶり9回目の甲子園出場。結果は、岡山県の創志学園に11対8と打ち勝つ野球で勝利し、ベスト16という輝かしい成績で本県を大いに盛り上げました。



左から、赤坂昌吉校長、関口清治監督、石橋泰成主将、畠山俊彰県本部長

地産地消!いわて純情むすめが販売

8月12日(金)

純情農園野菜販売

JA全農いわては盛岡市内のふれあい純情市場さっくらにて、トウモロコシとスイカの販売会を開催しました。

これらは、毎月第土曜日放送のテレビ番組「じゃじゃじゃTV」(IBC岩手放送)内ミニコーナー「じゃじゃじゃTV de 純情農園」でアナウンサーやいわて純情むすめらが栽培したもの。同コーナーは、農業の楽しさや魅力を発信することを目的に今年6月から、JA全農いわてが提供しています。

お盆入り前日ということで大賑わいの店内、レジには大行列ができていました。商品は早々に完売し、スイカを買ったお客様は「安くて甘い、これから放送も見てみます」と話しました。同番組で生産に携わり、当日の販売会にも駆けつけたいわて純情むすめは「こんなに売れるなんて正直びっくりしました。今まで以上に心を込めて農園



自分たちが育てた作物を販売する喜びを味わいました

作業をしていこうと思いました」と喜びを語りました。

今回の売上金は、12月に共同募金の一環として行われる、NHK歳末たすけあい募金に寄付する予定です。

チームWESTが実力見せつけ勝利

7月18日(日)

ジャパンジョッキーズカップ開催

盛岡競馬場OROパークにて、ジャパンジョッキーズカップ2016が開催されました。

JA全農いわてはこの大会に特別協賛しており、勝利チームと優勝騎手、優勝馬関係者へ副賞として岩手県産農畜産物を贈呈しました。

大会はチームJRA4名、チームEAST(東日本地方競馬)4名、チームWEST(西日本地方競馬)4名の3チームでの対抗戦。対象レース3戦の着順で争い、チームWESTが見事勝利をおさめ、同チームの永森大智騎手が優勝騎手に輝きました。優勝チームには「いわて牛サーロインステーキ」「エーデルワイン」「江刺金札米ひとめぼれ」「いわて純情りんご」を、永森騎手には「いわて純情豚一頭分」「江刺金札米ひとめぼれ」をそれぞれ贈りました。

また、当日はいわて純情むすめが来場者へ県産牛乳やりんごジュース、パックごはんを手渡し、純情ブランドをPRしました。



優勝したチームWESTの皆さんへ県産農畜産物を贈呈

食べる楽しさ大切さ

7月末日

わらしゃん丼in夏休み企画



参加者へ「じゅんきんストラップ」をプレゼント

JA全農いわてが農畜産物を提供するこども食堂(わらしゃん丼)は、子どもたちの夏休みに合わせ「わらしゃん丼in夏休み企画」を開催しました。これは大勢で食卓を囲み、食べる

楽しさや大切さを伝えることを目的として、NPO団体や地域住民のボランティアが中心となり運営するものです。当日は約30名の児童が参加し、夏休みの工作に最適なフォトスタンドやオリジナル柄のうちわを作成。その後開催されたバーベキュー大会では「いわて牛」を使用した焼肉や焼きそば、県産米おにぎりが振る舞われ、大人も子どもも大満足の様子でした。

このイベントには2016いわて純情むすめも参加。児童一人ひとりに「じゅんきんストラップ」を手渡しました。わらしゃん丼の関係者は「農畜産物を提供していただき感謝しています。みんなで食卓を囲んで、楽しい場所づくりをしていきます」と感謝の意を述べました。



千葉に代わりまして「クララ」新担当となりました、今月の「純情人」の小野です。今月号より、とりまとめをさせていただきます。入会当初は右も左もわからず、あたふたしている毎日でしたが、ようやく業務内容に少しずつ慣れてきました。まだまだ未熟者ですが、先輩方に教わりながら、皆様が見やすくと

面白い会報誌にしていきたいと思っておりますので、よろしくお祈りします!

また、来月からいわて国体本大会が開催されます。私の同期が10月2日(日)にソフトボール競技に出場しますので、こちらも応援よろしくお願いします!

(小野)

いわたJA-SSチェーンは、

岩手の農業を 応援します!

15周年

軽トラック用スタッドレスタイヤ 特価販売キャンペーン

受付期間 2016年9月1日(木)～10月31日(月)

期間
限定

国産3メーカーの スタッドレスタイヤが 大特価!!

作業工賃は
別途

DUNLOP	YOKOHAMA	BRIDGESTONE
WINTER MAXX SV01 145R12 6PR WINTER MAXX SV 01 4本 セット	ice GUARD iG91 for VAN 145/80R12 80/78N 4本 セット	W300 145R12 6PR W300 4本 セット
特別価格 10,800円 (税別) 11,664円(税込)	特別価格 11,200円 (税別) 12,096円(税込)	特別価格 11,600円 (税別) 12,528円(税込)

*金額はタイヤ4本セットでの価格となっております。ホイールは含まれておりません。

詳しくはお近くのJA-SSへ!

いわたJA-SSチェーン

チェーン本部 岩手県盛岡市上里31番地42-1
TEL 019-646-7283 URL <http://www.jppp.jp/ja-ss/>



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

- 私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
 - 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
 - 地球の環境保全に積極的に取り組みます。